

東建パブリニュース

平成29年 1月18日

経営管理本部 広報IR室

《このニュースは、当社に関連する記事が掲載された新聞・雑誌等の情報を逐次、速報するものです。》

掲載

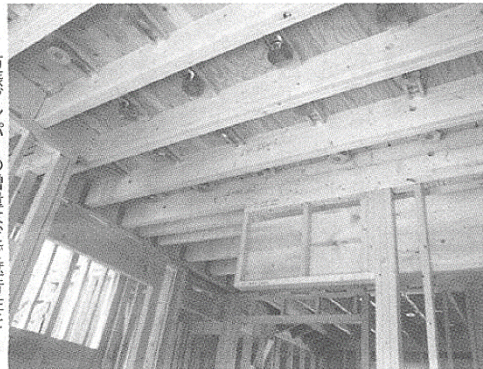
平成29年 1月11日 日刊木材新聞 P. 24

●当社に関する記事の掲載がありましたので、以下の通りご報告いたします。

木造アパート用高遮音床開発

最高レベルの遮音性能を実現

東建コーポレーション



防振ダンパーの増量などで遮音性をさらに高めたTKS-50

東建コーポレーション（名古屋市長、左右田稔社長）は、木造賃貸アパート最高レベルの遮音性能を実現したオリジナル高遮音床「TKS-50（東建高遮音床-50システム）」を開発した。1月中旬から高耐震木造2×4工法アパートにオプションとして導入し、将来的には同工法アパート商品すべてに拡大する予定だ。

同社はこ「50」という最高レベルまで、高遮音床「TKS-50」を木造アパートに標準採用してき。今回開発の同50はさらなる改良版で、鉄筋コンクリートスラブ厚270ミリ相当（LH）の数を1・8倍に増やした。遮音の仕組みは、上階床の根太の間に、受け材に取り付けられた防振ダンパー（住友理工製）を配置して床からの音や振動を吸収し、さらに防振吊り木を組み合わせ下階への衝撃の伝わりを抑制するといふもの。同50に比べて防振ダンパーの数を1・8倍に増やし、床根太はシングルからダブルに、床材の石膏ボードは硬質タイプに変更している。また、天井内に空気の流れる道をつくることで、振動の原因となる圧縮空気の力を抑制する仕組みも導入している。同50の遮音性能は公的機関である建材試験センターで実証済みで、遮音床システムとして特許も取得済み。当面は同社の高耐震木造アパート「2×4・ユニヴァーライ」にオプションとして導入し、その後は順次すべての2×4工法アパートに導入する予定だ。

▲平成 29 年 1 月 11 日 日刊木材新聞 P. 24